

キャラクター名
幟畏 依代(li lyo)

プレイヤー名

シンドローム	アザトース		ワークス	文化部A	カヴァー	
	オルクス					
オプション		年齢	16	性別	♀	
覚醒	感染	衝動	憎悪	初期侵食率	41	%
出自	祭り上げられた子	経験	災難	邂逅	友人	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	30
肉体	1		0			1	行動値	13
感覚	1		0			1	(非装備時)	13
精神	4	1	0	1	2	8	戦闘移動	18
社会	2		0			2	全力移動	36

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	11		交渉		
回避			知覚			意志			調達	1	
運転:			芸術:			知識: <small>知識: 知識</small>	4		情報: アカデミア	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
Aランク:スペシャリスト	
Rバランサー	
デリバリー	
購買部情報網	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイムス	消費
遺産継承者: 天空の隼P		N		
暗煙の鳥	P 連帯感	N 偏愛		
烏山 高良	P 好奇心	N 勿体ない		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 6 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
conc. Aza	2	2	maj					
効果:	C-Lv							
縛鎖の空間	3	3	maj	視界	単	RC		
効果:	射攻, 命中時与放心+重圧, Lv/sr							
棘の戒め	1	1	maj	視界	単	RC		
効果:	射攻+Lv, 与dm時与硬直							
崩壊の幻視	1	2	maj	視界		射/RC		
効果:	ドッジ失敗orG時与放心or憎悪:攻撃者or恐怖:攻撃者							
安息の破壊者	5	3-1	aut	20m	単			
効果:	BS回復時与[Lv*3]HPdm, 無効[神性]							
憎悪と狂気の宴	5	4	set	視界	単		120,憎悪	
効果:	被HPdm+[Lv*3]~r中, 自分は受憎悪:対象							
ref. Oru	2	2	rea					
効果:	C-Lv							
幸運の守護	1	1	rea			RC		
効果:	ドッジ							
支配の領域	1	6	aut					
効果:	判定出目一つ1に変更, Lv/(sr・判定)							
領域の加護	1	3	aut	視界	単			
効果:	被BS時暴走以外Lv個回復, 1/sc							
狂気の洞察	1	1	maj			RC		
効果:	情報:判定を+[Lv*2]Dで行う							
Rバランサー, デリバリー	2							
効果:	安息の破壊者の侵-1, 行動値+3							
地獄耳	★					RC		
効果:	領域内を見聞きする							

元々は資産家であった両親だが、事業に失敗したことを発端にオカルトにのめり込んでしまった。優秀な起業家であったことが働いたのか、彼らが開いた新興宗教は徐々に信者を獲得していく。この成功体験が彼らを余計に泥濘へと陥らせていった。優秀で厳しくも、優しい愛に溢れていた両親が、狂っていき、そして周囲を巻き込んでどん底へと落ちていく様は、思春期の娘にとっては見るに耐えなかった。そんなストレスから生じた親子の諍い。しかし子が普通ではなかったのだ。**は口論のふとしたはずみでその異能を発生させてしまう。離れたはずの物体が彼女の動きに同期して浮遊する。ありえない超常現象に、両親は恐怖するのではなく歓喜した。自分たちの娘は神の遣いなのだ、自分たちが教祖として教えを広めたのはまさしく天啓であったのだ。興奮した両親はその勢いのまま、偶像が何かのように信者に広め、崇め始める。そして真なる神の子として覚醒させるのだと、多種多様な呪術的儀式を行った。傍から見ればどれも何の効果も出るはずのない、意味不明な行為の数々。ただオカシクなった信者たちが、その狂気の果に単なる幻影を見るだけの、無価値な行い。しかし何の因果か、悍ましき存在の気まぐれか、本来繋がらない筈の、繋がってはいけいモノと接続してしまう。一瞬の邂逅の末、単なる少女であった**の精神の一部は接触者に啄まれ、呑み込まれてしまった。そして接触者はその煙のような身体を燃らせると、一部が**の鼻孔を通して侵入し、忽ち彼女の身体を支配した。"それ"は**の身体で周囲を確認すると、辺りを浮遊する、黒い翼を持つ煙のような歪な鳥を操り、自身を崇める信者に殺戮をもたらした。この異常事態にはUGNも即座に対応し、"それ"が本格的に動き出す前に**の肉体を麻酔で眠らせ保護した。この一連の動作自体に、悍ましき上位存在が意図したものだったかは全くもって不明であり、単なる嘲笑でしかなかったのかもしれない、彼らの"身動き"の余波に巻き込まれただけかもしれない。何れにせよ彼らの考えを理解すること自体が誤りである。保護した**に対して、UGNは慎重に交渉を行った。

